

平成30年度第1回北九州市立図書館協議会 会議録

1 会議名 平成30年度第1回北九州市立図書館協議会

2 議題 ① 図書館について  
② その他（分館の愛称について）

3 開催日時 平成30年5月18日（金） 13時30分～14時30時

4 開催場所 北九州市立生涯学習総合センター21学習室

5 出席者氏名

(1) 委員（会長他10名、欠席委員5名）

北九州市立大学図書館長	中尾 泰士
北九州市学校図書館協議会会長	中野 まどか
北九州市学校図書館協議会副会長	本田 壽志
公募委員	尾場瀬 淳美
公募委員	鳥越 美奈
北九州市社会教育委員	宮本 和代
北九州市婦人団体協議会副会長	山口 万規子
北九州市A V Eの会会長	木村 健一
北九州児童文化連盟委員	柴原 佳代子
北九州青年会議所委員	末松 美緒

(2) 事務局（中央図書館長他6名）

中央図書館館長	小坪 正夫
中央図書館庶務課長	酒井 国広
中央図書館奉仕課長	福田 敦司
中央図書館図書館業務担当	庄 展彦
教育委員会企画調整課長	正平 徹二
教育委員会子ども図書館準備室長	古林 節子

6 傍聴者 1名

7 会議次第

議事（報告、質疑応答）

## 8 会議経過（発言内容要旨）

### （1）議事

#### ① 図書館について

資料1「図書館について」に基づき、事務局より説明。

（委員）

戸畑図書館の利用が非常に多いのは、何か理由があるのか。

（事務局）

戸畑図書館は、平成26年3月に旧戸畑区役所に移転開館した。以降、平成27・28年と利用が増えているのは移転の効果が出ていると考えられる。

（委員）

八幡図書館も結構利用していると思うが、戸畑図書館は、八幡図書館の約2倍の利用実績が上がっている。

（事務局）

八幡図書館も平成28年4月に移転して、児童室が前より広くなった結果、貸出者数・冊数ともに、移転前の27年度に比べると増加している。

#### ② その他について

資料2「分館の愛称について」に基づき、事務局より説明。

（委員）

「そねっと」は曾根分館の愛称なのか

（事務局）

「分館」が正式名称で「こどもと母のとしょかん」は愛称になる。

「そねっと」については愛称だが、曾根分館設置当時、地元から愛称を募集し、「そねっと」が選ばれ、そのまま名前が継続している。

利用状況からみると母と子供だけでなく、一般の方の利用も多く、「こどもと母のとしょかん」という名前について、どう対応していくかについてご意見を伺いたい。

なお、地元から公募した愛称「そねっと」は今後も継続していきたいと考えている。

(委員)

「折尾こどもと母のとしょかん」では夏や春の休みの時期になると子供が多いと思うが、その他の時期は、年配の方がたくさん来られることが多い。

もちろん、「こどもと母のとしょかん」という愛称があってもいいが、愛称を募集し、子供と母だけじゃない、お年寄りの方も来られるといった大きな枠で、八幡だけでなく北九州自体が高齢化している中で、それを含めた名前を付けるのも一つの案だと思う。平日は年配の方が多いため、「そねっと」のようにもう少し変わった愛称があってもいいと思う。

もちろん小さな子供が靴を脱いで上がって楽しめるスペースも必要だし、あまり遠くに行けないお年寄りに向けて座れる場所が多くある閲覧室等、年長者にも配慮した分館をつくっていただけたらいいと思う。

(委員)

どうしても「古い」「変えなければ」という声が多い場合、変えなければいけないのかもしれないが、「こどもと母のとしょかん」のひらがなのパツと見のやさしさ、文字の感じが、以前から親しまれているのならこのまま使っても良いと思う。

実際は高齢者の利用が多いと思うが、高齢者に関わらず一番近い館を利用するので、「こどもと母」というネーミングについて、「こどもと母」だけの利用という意識はあまり持っていないと思う。どうしても愛称が必要なら「そねっと」のような愛称を付けても良いと思うが、私は、「こどもと母」という名前がとても好きである。

(委員)

蔵書の構成は、どうなっているか。

(事務局)

蔵書構成については、分館でも児童書が半分に届かず、一般書の方が多いところもある。これは、大人が利用している現状もあって蔵書構成が変わってきたところがある。

例えば、「曾根分館」約 40%、「大里分館」約 42%、「新門司分館」約 41%、「折尾分館」約 56%という風に、40～50%台で推移している。

特に児童書だけが多いということはなく、一般・子供ともに利用できる蔵書構成になっている。また、貸出冊数に占める児童の割合も約 2 割で推移している。

分館だから、子供が来るという事ではない。今は地区館にも児童書室やコーナーを設けているので、どの図書館でも、多くの子供が利用している。利用者の割合からも、あまり分館と地区館とで変わらなくなっている。

また、男女共同参画の視点から「母」という言葉を入れる必要があるのかという意見もある。

正式名称は「分館」であるが、愛称として「こどもと母のとしょかん」や「そねっと」が設けられているので、そこをどうするのか、それぞれの図書館の中に児童室等があり、

分館にも同様なコーナーがあるので、施設機能の中で整理する等、色々な考え方があると思う。今後の参考として、図書館協議会でご意見を伺いたいと考えている。

(委員)

県外から移住したばかりの子育て時期、近くに「こどもと母のとしょかん」が開館してもものすごく嬉しかった。大きなお腹でもくつろいだし、子供が生まれたら、一緒に本を読み、地域の先輩方もいらっしゃって、色々なアドバイスをいただいた。

大きなお腹では、なかなか中央図書館や地区館には行けなかった。

時代が変わっているから、名称や愛称が変わるかもしれないが、折角、そういうことを踏まえて設置された「こどもと母のとしょかん」だったので思い入れがある。男女共同参画といっても、母子手帳の例のように母子というのは温かいものを感じる。子供達も利用しているし、色々な人との出会いがある。

今は、色々な施設へ「子育てコーナー」等あるが、当時は画期的で、分館へ行けば、安心して子育てができ、そして本という文化的な活字を通して交流ができる。

「こどもと母のとしょかん」という名称ができた経緯を考えると、消してしまうのは簡単だが、残っている私達としては、受け継いでいく価値があるような気がする。

(委員)

10年程前、北九州に訪れた最初の頃、「こどもと母のとしょかん」という名前を見て、「僕は行っちゃいけないんだ」と感じられた。こういう名称では、子供とお母さんのための図書館で、「男性は排除されているのか」という印象を受けた。

図書館の意向としては、更に色々な人が図書館に来てもらえるようにしたいということと解釈している。

どういう名称がいいか分かりませんが、「みんなの図書館」とか、いろいろな人に受け入れられ、より身近な場所だということがわかれば、いいと思う。

(委員)

以前は喫煙する方が多かったから、こういうところに行くとホッとできた。今は分煙されているからそうないが、母子のことを考えるこのコーナーは、安心できるというソフト部分でプラスの作用があった。この先を考えると世の中が変わっていくので、こういう経緯でこの名称があったというのがわかって繋がっていくなら、別に「こどもと母」にこだわることはないと思う。

(委員)

「こどもとお母さん」はニュアンスとして優しい言葉であるが、「こどもと母」では、男性にとって何となく一步踏み出しにくい。特に団塊世代の男性は、行きづらいと感じやすい。その時、「おいらの図書館」「わがまち図書館」など少し言葉が変わってもいいのではないかと思う。

ただ、経緯を伺うと、優しい親子の愛情が核になっていることが分かる。団塊世代の男性でも、気軽に訪れられるようなネーミングを考えていただきたい。

ところで、八幡西区鳴水では、大学生と地域が一緒になって木の廃材から椅子を作っている。子供と保護者と大学生が協力して、子供の好きなデザインの椅子をいろいろなところに置いてもらっている。

これらは「おいらのバンコ（縁台）」と名前が付き、公園でお年寄りが座っている。鳴水の子供たちが作ったものと地域に受入れられ、親しみも沸き、そんな感じに持っていければいいと思っている。

(委員)

先程、男性委員が言われたように男性が行きにくいということは一理ある。私も小さい頃から慣れ親しんでいるが、父を誘うと「こどもと母の」と入っているので「お父さんは行けないんだよ」と言われたことがあったので、私もそう思っていた。訪れても、女性しかおらず、そういう図書館なんだろうと思っていた。

幅広く使ってもらうトイレであれば「みんなの」と頭についていたり「多目的」であったりするが、「みんなの」で、誰でも大丈夫と伝えることが多いので、そうなっていただければいいと思う。

ただ北九州で生まれ育っているので、「こどもと母のとしょかん」という響きは好きであるが、小さい頃からの印象があるので、「今の時代にはあわないのか」と思っている。

(委員)

もう「こどもと母のとしょかん」を辞めて、「そねっと」という愛称があるように、地域の名がついた分館に統一するのはどうだろうか。

愛称は付けないといけないのか。「こどもと母」は抜いて、全部、分館にしてもいいのではないかと思う。

(事務局)

中央図書館があり、各区に地区館がある。それより規模が小さい形で分館がある。

「こどもと母のとしょかん」という愛称で周知してきたが、分館の設置状況の変化、また子ども図書館が開館することもあり、「こどもと母のとしょかん」の愛称をどう考えたらいいのかということでご意見をお聞きしている。

(委員)

地域の方は、そこに住んでいるから分館に行く。地域の方は、あまり分館という意識はしていない。

「分館」という名称はいらぬのではないかと。分館を訪れた方は、ここは小さいから蔵書が少ないと思うだけ。中央図書館は大きいから蔵書が多いと思うだけ。

それよりも、大きくても小さくても「おいらの図書館」という感じがあったらいい。

分館というと、一段下がったイメージになる。あえて分館にしなくてもよいのではないか。

(委員)

「そねっと」は地域から声が上がってその名前になったのであれば、各地域でそれぞれ募集をかけて、自分たちの図書館の名前を決めてもらうのはどうか。

(委員)

そういうことであれば愛着がわく。分館は表面に出さなくてもいい。

愛称として「そねっと」のような少し柔らかい、地域で自分たちの図書館みたいな愛称を付けた方が親しみがわく。親と子、子供と母親と限定しなくても、誰でも気さくに使える図書館だと。

(委員)

「そねっと」の名前を公募する経緯は地域の声ですか。

(事務局)

「そねっと」は曾根出張所と一緒に、体育館もある複合施設となっている。

新しく曾根に複合施設を、その中に図書館をつくるにあたり、地域の方と話す中で図書館については公募という話が出た。

(委員)

小学校で、北九州市が公害を克服した都市としての歴史などは勉強しますが、図書館の歴史について勉強したことはありませんでした。そういう点では、今日ここに来てよかったと思う。

特別活動の領域になるのか、また子供達が調べてみたいと思うかは、私たちが火をつけていくところだと思う。

「読書好き日本一の子ども」を創ろうというのであれば、こういう意見があり、大勢の人の関わりがあったからこそ、今の図書館があるということを伝えていきたい。

(委員)

男女共同参画の視点にも立って、子供たちにとっても愛すべき愛称があったらいいと思う。

(事務局)

頂いたご意見は、今後の参考としていきたい。

(委員) 事務局から連絡事項はありますか。

(事務局)

去年、門司・戸畑図書館の指定管理者選定を行った。今年は若松・八幡図書館の指定管理者選定を行うので、改めてご報告する。

本年度、図書館協議会委員の改選年度になる。新たな委員の任期は、平成30年12月1日から2年間。詳細が決まり次第、改めて所属団体を通じてご案内する。